

みんなで育もう！地域の安全と安心！

はじめての 防犯活動ハンドブック



栃木県

はじめに

ハンドブックをご覧ください、ありがとうございます。

このハンドブックは、栃木県内で防犯活動に取り組むみなさんを応援するために作られました。

これからチャレンジしてみたいみなさんにとっても役立てていただける一冊です。地域や子どもたちの安全安心を守るため、ぜひ活用ください!

目次

- ・ いま、みなさんの防犯活動の力が重要です！ . . . 2
- ・ 市民防犯の役割とは . . . 3
- ・ 地域ぐるみで取り組もう！ . . . 5
- ・ 市民防犯の心がまえ . . . 7
- ・ 防犯活動のポイント . . . 9
- ・ 市民防犯の活動スタイル . . . 13
- ・ いま広がる、「ながら見守り」 . . . 14

いま、みなさんの防犯活動の力が重要です！

誰もが犯罪被害に遭うことなく、安全安心に暮らすことは、私たちすべての願いです。しかし、栃木県内でも、子どもや女性、高齢者などを狙った犯罪や、大切な財産の盗難被害など、身近なところで犯罪が発生しています。

子どもたちや地域のみなさんが犯罪被害に遭うことなく、元気にすごすためには、地域全体での見守り活動が大きな効果を発揮します。

警察や自治体、教育委員会等の関係機関の取組とともに、地域のみなさんの防犯活動の力が求められています。

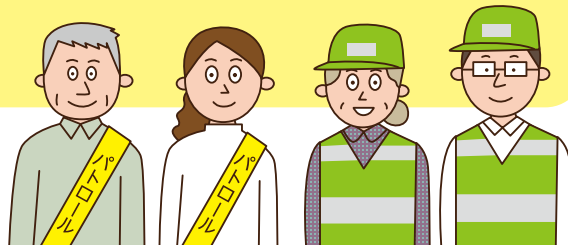


市民防犯の役割とは

市民防犯とは

市民防犯とは、地域住民が主体となって、犯罪を未然に防ぐために行うボランティア活動のことです。

通学路での見守りをはじめ、徒歩による防犯パトロール、青パト(青色回転灯装備車)による巡回、買い物や散歩をしながらの見守りなど様々な活動が行われています。



警察防犯と市民防犯

警察官が担う警察防犯は、パトロール活動のほか、職務質問や捜査など犯罪と直接対峙する「直接的な防犯活動」を担うことができます。また、市民防犯は、見守りや助け合いなどの「間接的な防犯活動」で効果を発揮します。警察防犯と市民防犯は、パートナー

として連携しながら地域を守る力となっています。



市民防犯の目的

市民防犯の主な目的は、①犯罪が起きにくい環境づくり、②助け合いの環境づくりなどです。活動に取り組む上で大切にすべきことは、「人と人とのつながり=絆」を育む意識です。

防犯における環境づくりは、ひとりだけで行うことが難しいものです。だからこそ、地域全体の緩やかなつながり、意識の共有が欠かせません。



市民防犯が生み出す効果

人の目が届きにくい、「空白地帯」と呼ばれるような場所や瞬間に発生しやすい犯罪を防ぐためには、ふだんから地域住民が姿を見せ、あいさつや声かけを行うことが効果的です。地域に関わる人が増えることで、犯罪をしようとする者にとっては、「見られている」という意識が広がり、犯罪や悪意が実行しにくい「自然監視」と呼ばれる効果が生み出されます。

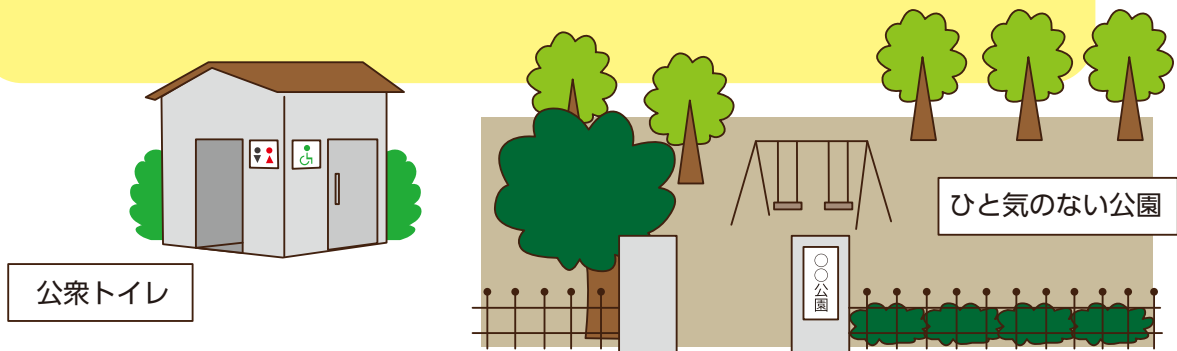


地域ぐるみで取り組もう！

犯罪被害が起きやすい“空白地帯”をなくすために

子どもが狙われやすい犯罪の多くが、いわゆる「空白地帯」で発生しています。そのため、地域全体で「子どもだけになる瞬間」を減らす努力が欠かせません。

また、継続的な防犯教育を行うことで、子どもたち自身が危険を回避できるよう、防犯意識を向上させることが大切です。



地域の連携・協働

地域の防犯では、地域の様々な主体間における連携・協働が重要です。警察や自治体、学校や教育委員会、自治会、PTA、NPOなどの関係団体がそれぞれの役割や得意分野を知り合い、緊密な情報共有や意見交換などを行いながら取り組むものです。定期的な連絡やワークショップの開催で顔の見える

関係をつくりましょう。



警察や自治体との連携・協働

警察や自治体は、ともに地域や子どもたちを守る「安全安心のパートナー」といえる存在です。連携・協働するためには、市民防犯の範囲を正しく理解し、地域における防犯活動が活性化するための様々な支援や協力が必要です。実際に市町によっては犯罪等の情報の共有や防犯講習の実施、防犯グッズ等の貸与、ボランティア保険の一部負担など、地域特性に合わせた取組が行われています。詳しくは県
又はお住まいの市町に
お問合せください。



学校との連携・協働

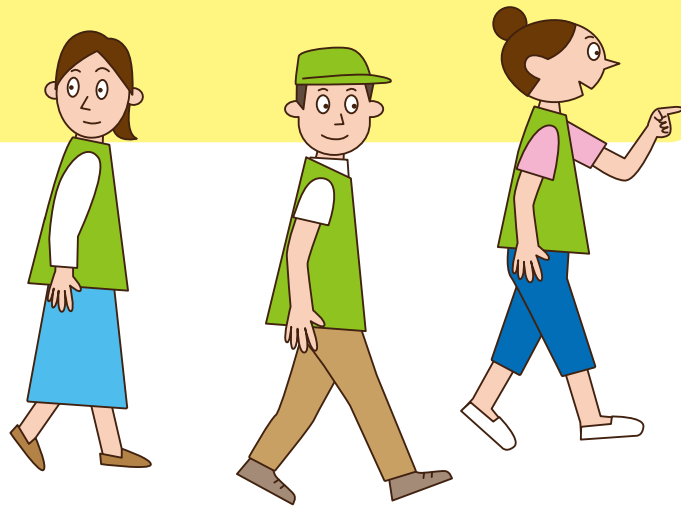
子どもたちを守る通学路の見守りについては、学校や教育委員会、PTAとの連携・協働が欠かせません。地域における児童・生徒の行動パターンや行動時間帯、安全・防犯に関する気になる点などの情報の共有を行いましょ。

また、地域で取り組んでいる防犯ボランティアの活動を児童・生徒へ周知することも、見守り・助け合いの効果を広げることにつながります。



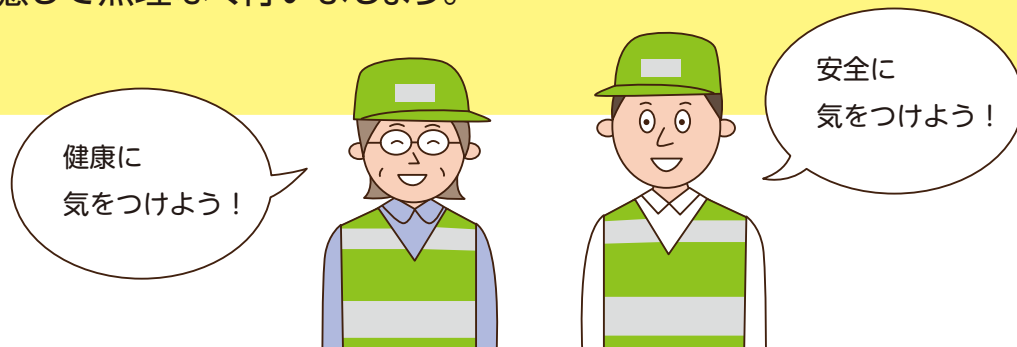
市民防犯のあり方

市民防犯は、地域住民ができる範囲で行う活動です。
特別な権限もなく、武器の所持も許されていません。
行き過ぎた言動などでトラブルが発生しないよう、くれぐれも
注意して取り組む必要があります。
コミュニケーションを重視し、犯罪が起きにくい環境づくりを
目指しましょう。



安全第一で取り組みましょう!

見守りや防犯パトロールを行う際は、第一に活動するみなさんの
安全をしっかり確保することが求められます。健康状態なども考
慮して無理なく行いましょう。



適度な距離感で見守りましょう

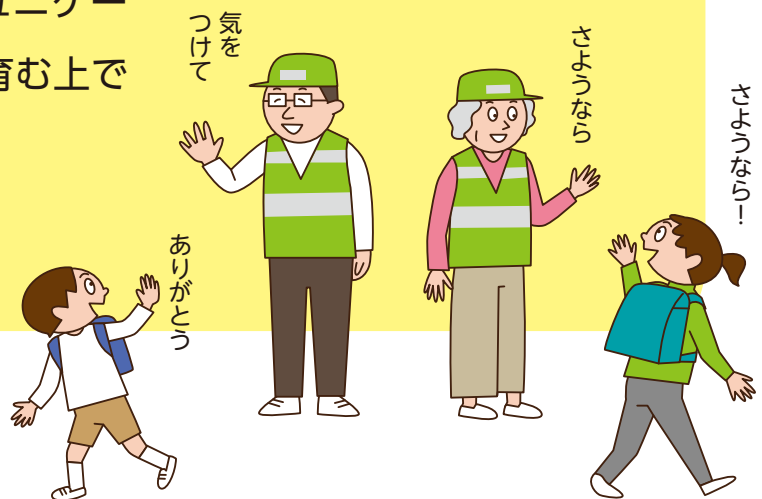
子どもたちを見守る際は、適度な距離感を保つことが重要です。トラブルや誤解を防ぐため、保護する場合を除き、過度な接触はしない、不安を与えるような言動をしない、飲食物を渡さない、むやみに車や私有地に招き入れないなど、防犯活動に取り組む側にもマナーが求められます。



コミュニケーションを大切に!

防犯活動に取り組む上で重要な要素が、コミュニケーションです。あいさつや健全な声かけを行うことは、見守りと助け合いの雰囲気を広げ、安心感を生み出すことにつながります。

地域住民同士のコミュニケーションは、地域の絆を育む上でも重要なものです。



防犯活動のポイント

防犯活動のポイント

地域の中で「子どもだけになりやすい所」、「見えにくい所」、「声かけ等が発生している所」などを中心にパトロールや見守りをする
と効果的です。地域特性やニーズに合わせて活動エリアや時間
帯などを設定すると良いでしょう。



防犯活動が生み出す様々な効果

地域で防犯活動に取り組む姿を見せることで、①犯罪が起きにくい環境をつくる効果、②一人ひとりの防犯意識を高める効果、③関係機関等との協働・連携が活性化する効果、④安心感を広げる効果など、地域や子どもたちを守るためのたくさんの効果が得られます。



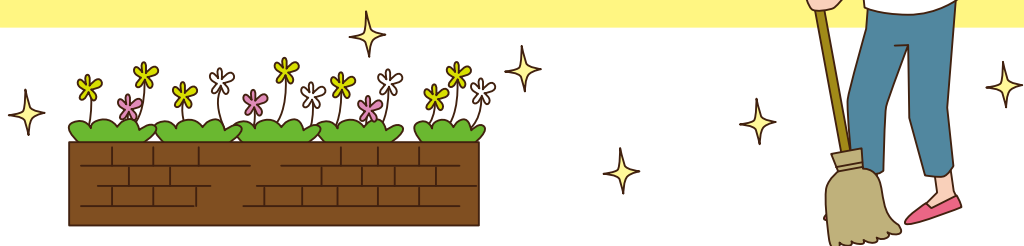
れます。

また、見守られる側の子どもたちが、将来大人になったときに見守る側となるサイクルができることが期待されます。

環境美化の視点も

落書きが残ったままの場所やゴミが散乱している場所などは、地域の関心が向けられていない、犯罪が発生しやすい場所だと考えられます。

日頃から地域の環境美化に努めることにより、人の目が届いているという効果が生まれ、犯罪が起きにくい環境づくりにつながります。

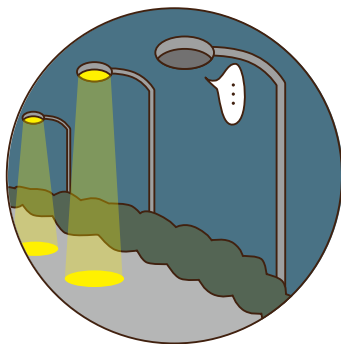


防犯活動のポイント

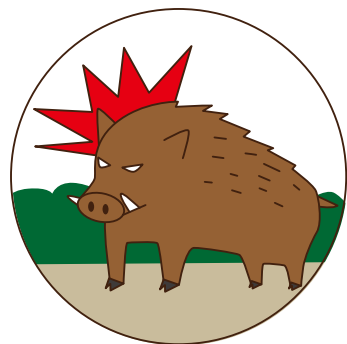
交通安全や防災の視点も

防犯パトロールや見守りをに行っていると、防犯のみならず、交通安全や防災に関して気になることを発見することがあります。その際は、管理する警察や自治体の担当課へ連絡をしてください。日頃から地域をよく知るみなさんの視点は、地域の安全対策や課題解決への大きな力となります。

点灯していない街灯



イノシシとの遭遇



川の事故防止



防犯活動時の注意点

市民防犯は、原則、公道や公共空間での活動となります。許可を得ていないかぎり、集合住宅や駐車場などの私有地へ立ち入ることは避けましょう。

また、防犯活動を行う際は、歩行者や自転車の通行を妨げないなど、周囲への配慮も求められます。



事件や事故を発見した際はすぐに通報

万が一、活動中に事件や事故などを発見した場合は、速やかに110番通報しましょう。その際、現在地を正確に伝えることが重要です。道路標識や電柱の管理番号を伝えるなど、日頃から位置や表示を確認しておきましょう。

なお、気になることや心配なことなどがあれば所轄の警察署や自治体へ連絡・相談しましょう。



青パトは安全運転を心がけましょう

青パトによる防犯パトロールも広がっています。パトロールを行う際は、安全運転を行うことが大前提となります。また、歩行者などに配慮した優しい運転を心がけることは、他のドライバーへの安全運転啓発にもつながります。なお、運転する際は免許証の有効期間の確認も忘れずに行いましょう。青パトによる活動については、所轄の警察署へご相談ください。



防犯活動を行うときのスタイル

防犯活動の効果を高めるためには、活動している姿を広く知らせることがポイントです。たとえば、おそろいのカラフルな服装、腕章といったユニホームなどを身に付けて活動することがおすすめです。遠くからでも防犯活動をしている姿が分かることで、地域全体に安全と安心の輪が広がりやすくなります。

また、カラフルなジャンパーなどを身に付けることは交通安全にも役立ちます。特に夜間の活動時には反射材を用いることをおすすめします。



ユニホーム



腕章



自転車プレート

防犯啓発で高めよう、一人ひとりの防犯力

防犯活動は、見守りやパトロールばかりではありません。

啓発活動をとおして自分を守ることの大切さや、防犯のコツを伝えることも重要な役割です。

また、防犯は、子どもたちや高齢者など幅広い世代に共通の重要なテーマです。チラシやポスター、紙芝居、寸劇など様々な工夫を活かせる分野でもあります。



いま広がる、「ながら見守り」

生活にあわせた無理のない防犯活動

防犯活動は、ボランティア団体による活動だけではありません。見守りの「空白地帯」を埋めるため、「ながら見守り」を実践してみましょう。「ながら見守り」とは、生活に合わせた無理のない防犯活動です。

お買い物や散歩のとき、農作業や庭仕事のとき、自転車で外出するときなど、日常生活の中で地域や子どもたちへ見守りの目線を向けることは、防犯効果を高めることにつながります。

「地域に人の目があること」が、犯罪が起きにくい環境づくりの底力となります。

「ながら見守りパートナー」・「ながら見守りサポート企業」になろう!

県が実施する「ながら見守り」に関する出前講座を受講したみなさんが「ながら見守りパートナー」、企業単位で受講した企業が「ながら見守りサポート企業」となって、日常生活や事業活動の中で見守り活動を実践していただいています。

出前講座では「ながら見守り」の実施方法や犯罪が起こりやすい場所の見分け方、110番通報のポイントなどをご説明します。

「ながら見守りパートナー」や「ながら見守りサポート企業」の詳細はこちら→





防犯講習の開催など、防犯活動に関するご相談は、
お気軽にご連絡ください!

栃木県生活文化スポーツ部くらし安全安心課
〒320-8501 宇都宮市塙田1-1-20
電話 028-623-2154
E-mail kurashi@pref.tochigi.lg.jp